

V 試験研究発表題名

令和元年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. TSUJIMURA Maiko (辻村舞子・秋田県立木材高度加工研究所)、GOTO Manami (後藤真奈美・岩手大学)、TSUJI Minori (辻稔・岩手大学)、YAMAJI Yoshie (山路良江・岩手大学)、ASHITANI Tatsuya (芦谷竜也・山形大学)、KIMURA Kenichi (木村健一・岩手大学)、OHIRA Tatsuro (大平辰朗)、KOFUJITA Hisayoshi (小藤田久義・岩手大学). Isolation of diterpenoids from sugi wood-drying byproducts and their bioactivities (スギ材乾燥副産物由来のジテルペン類の単離と生物活性). *Journal of Wood Science*, 65:19 (2019), doi.org/10.1186/s10086-019-1787-3
2. 松井直之、橋田光、楠本倫久、大平辰朗. 減圧下の水蒸気蒸留法による樹木精油の採取とその性能向上の試み. 抽出成分討論会発表要旨集, 2:18
3. 松原恵理、森川岳、楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗. 飲料に含まれる樹木香気成分による生理応答と印象評価の解析手法の検討. におい・香り環境学会講演要旨集, 32:59-60
4. 松原恵理、森川岳、楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗. 食に関わる樹木香気成分の生理心理応答評価手法の検討. 樹木抽出成分討論会発表要旨集, 2:17
5. 箕浦るん ((株) アサンテ)、佐々木伸也 ((株) アサンテ)、丸山省吾 ((株) アサンテ)、大村和香子、神原広平、大平辰朗、楠本倫久. シロアリ探知犬を用いた探知実験について. 日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集, 31:51
6. 大平辰朗. トドマツ枝葉を利用した空気質改善剤の開発. 香料, 282:31-39
7. 大平辰朗. 未利用林地残材を活用した森林ニュービジネスの可能性～枝葉から生まれた空気質の改善剤～. 研究応援, 15:48-49
8. 大平辰朗. 健康に役立つ森林の香り・木材の香りー最新の利用技術についてー. ガスクロマトグラフィー研究懇談会特別講演会「科学と文化に貢献するガスクロマトグラフィー」講演要旨集, 370:43-48
9. 楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗. 未利用資源「トドマツ樹皮」有用成分の効果的な抽出法. 森林総合研究所研究成果選集 2019 (令和元年版), 38-39
10. 王建鵬 (東京電機大学)、櫻井友香 (東京電機大学)、矢田堀裕聖 (東京電機大学)、對馬克伸 (東京電機大学)、大平辰朗、平本茂 (東京電機大学)、椎葉究 (東京電機大学). 孟宗竹の総合利用に関する研究 (その5). 日本農芸化学会大会講演要旨集 (2020), 4C02a08
11. MATSUBARA Eri (松原恵理)、MATSUI Naoyuki (松井直之)、OHIRA Tatsuro (大平辰朗). Evaluation of the psychophysiological effects of the Cupressaceae family wood odor. (ヒノキ科樹木香気の心理生理的効果の評価). *Wood Science and Technology*, 54:269-286
12. 大平辰朗. 発見・開発・連携の協働でつくる「森の恵」の100%有効活用事業クリアフォレスト. *PLY*, 11:8-11
13. 橋田光、楠本倫久、松井直之、牧野礼、大平辰朗、佐藤愛美 (山形大農)、芦谷竜矢 (山形大農). クロモジの抽出成分2ー含有フェノール成分と個体・季節間での含有テルペン類の違いー. 日本木材学会大会研究発表プログラム集, 70:M17-P3-15
14. 楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗、中田了五. 紫外線を利用したトドマツ樹皮精油の抗菌・殺虫能の増強. 日本木材学会大会研究発表プログラム集, 70:M17-P3-13

15. 松井直之、楠本倫久、橋田光、大平辰朗、磯田圭哉. コウヨウザン材の精油とその構成成分について. 日本木材学会大会研究発表プログラム集、70:M17-P3-10
16. 松原恵理、森川岳、楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗. クロモジ茶香気成分による生理心理的影響の評価. 日本木材学会大会研究発表プログラム集、70:M16-07-1715
17. 牧野礼、橋田光、松井直之、大平辰朗. 蒸煮爆砕処理したヤナギ樹皮タンニンの二酸化窒素除去能. 日本木材学会大会研究発表プログラム集、70:M17-P3-14
18. 大村和香子、神原広平、楠本倫久、大平辰朗、箕浦るん ((株) アサンテ)、佐々木伸也 ((株) アサンテ)、丸山省吾 ((株) アサンテ). 生物嗅覚を利用したセンシング技術の探求 (I) – シロアリ探知時の探知犬の反応特性解析 –. 日本木材学会大会研究発表プログラム集、70:N17-P3-11
19. 西園朋広、細田和男、家原敏郎、鷹尾元、齋藤英樹、石橋聡、高橋正義、古家直行、小谷英司、齋藤和彦、田中邦宏、田中真哉、光田靖 (宮崎大学)、北原文章、近藤洋史、高橋與明、佐野真琴. 平成23～27年度に調査した収獲試験地等固定試験地の経年成長データ (収獲試験報告 第26号). 森林総合研究所研究報告、18 (2):231-273
20. 家原敏郎. 研究成果の橋渡し – 国有林での現地検討会. 森林総合研究所関西支所研究情報、135:1
21. 齊藤哲. <企画シンポジウム>日本の人工林における気候変動適応策を考える. 森林技術、926:32-33
22. 田中憲蔵、齊藤哲、梶本卓也. 福島第一原発事故で汚染されたクリとカラマツの樹冠位置と放射性セシウム濃度. 関東森林学会大会講演要旨集、9:33
23. 井上裕太 (森林総研 PD)、田中憲蔵、矢崎健一、小笠真由美、荒木眞岳、齊藤哲. スギ成木の枝木部における通水機能の脆弱性. 関東森林学会大会講演要旨集、9:38
24. TANAKA Kenzo (田中憲蔵)、SAITO Satoshi (齊藤哲)、KAJIMOTO Takuya (梶本卓也). Differences in radiocesium concentrations among crown positions in several tree species in Fukushima, Japan. (福島県における数樹種の樹冠位置と放射性セシウムの違い). Brazilian Journal of Forestry Research、39 (IUFRO 2019 Specialissue):672
25. TANAKA Kenzo (田中憲蔵)、SAITO Satoshi (齊藤哲)、KAJIMOTO Takuya (梶本卓也)、MIURA Satoru (三浦覚)、KOBAYASHI Natsuko (小林奈津子・東大大学院)、TANOI Keitaro (田野井慶太郎・東大大学院). Seasonal changes in radiocesium and potassium concentrations in current year shoots in three tree saplings in Fukushima, Japan. (福島県における3樹種の幼木の当年シュートの放射性セシウムとカリウムの季節変化). Brazilian Journal of Forestry Research、39 (IUFRO 2019 Specialissue):672-673
26. 齊藤哲. 綾の照葉樹林 樹木ランキング. 綾リサーチサイト30周年記念公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」講演要旨集 (森林総合研究所九州支所)、:8
27. 篠宮佳樹、三浦覚、金子真司、大橋伸太、倉本恵生、荒木眞岳、安部久、齊藤哲、藤原健、池田重人、今村直広、坂下渉. 帰還困難区域内及び周辺のスギ林における放射性セシウムの分布の連年調査. 日本森林学会大会学術講演集、131:165 (P1-181)
28. 荒木眞岳、井上裕太 (森林総研 PD)、釣田竜也、阪田匡司、齊藤哲. 降雨遮断2年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 III. 樹液流速. 日本森林学会大会学術講演集、131:264 (P2-137)
29. 井上裕太 (森林総研 PD)、川崎達郎、荒木眞岳、田中憲蔵、北岡哲 (森林総研非常勤研究員)、釣田竜也、阪田匡司、齊藤哲. 降雨遮断2年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 I. 葉の水利用特性. 日本森林学会大会学術講演集、131:264 (P2-135)

30. 田中憲蔵、井上裕太（森林総研 PD）、川崎達郎、北岡哲、荒木眞岳、齊藤哲. 降雨遮断 2 年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 II. 光合成特性. 日本森林学会大会学術講演集、131:264 (P2-136)
31. 齊藤哲、川崎達郎. スギの直径生長と伸長成長の季節変化. 日本森林学会大会学術講演集、131:266 (P2-144)
32. IIDA Yoshiko (飯田佳子)、NAGAMATSU Dai (永松大・鳥取大学)、NISHIMURA Naoyuki (西村尚之・群馬大学)、YAMAGAWA Hiromi (山川博美)、SAITO Satoshi (齊藤哲). Tree demography and their associations with traits of leaf and stem in a warm-temperate evergreen broad-leaved forest in Japan. (日本の暖温帯林における動態と葉と幹の形質の関連について). 日本生態学会大会講演要旨集、67:H01-01
33. 井上裕太（森林総研 PD）、荒木眞岳、北岡哲（元森林総研非常勤研究員）、田中憲蔵、齊藤哲. スギにおけるシェード投影面積と針葉投影面積との関係. 日本森林学会誌、102 (1):7-14
34. 長倉淳子、三浦覚、齊藤哲、田中憲蔵、大橋伸太、金指努（森林総研 PD）、大前芳美（東京大学）. コナラ当年枝中のセシウム濃度の個体内変動. 日本森林学会大会学術講演集、131:164 (P1-177)
35. 平出政和、小松雅史、三浦覚、平井敬三、長倉淳子、金指努（森林総研 PD）、伊東宏樹、齊藤哲、田野井慶太郎（東京大学）、益守眞也（東京大学）、小林奈通子（東京大学）、二瓶直登（東京大学）、石川洋一（栃木県林業センター）、今井芳典（栃木県林業センター）、杉本恵里子（栃木県林業センター）、齊藤佳緒里（栃木県林業センター）. 利用可能なシイタケ原木林の判定技術及び樹木への放射性セシウム吸収抑制技術の開発. 森林総合研究所研究成果選集 2019（令和元年版）、42-43
36. 近藤駿太郎（横浜国立大学）、岡田慶一（横浜国立大学）、飯田佳子、新山馨、齊藤哲、森章（横浜国立大学）. 照葉樹林の樹種多様性と地上部生産性の関係におけるスケール依存性. 日本生態学会大会講演要旨集、67:P1-PB-193
37. 田中憲蔵、齊藤哲、梶本卓也. 福島第一原発事故で汚染されたクリとカラマツの樹冠位置と放射性セシウム濃度. 関東森林研究、71 (1):89-92
38. 細田育広. 森林と防災 第 1 回 日本列島の立地. 森林総合研究所関西支所研究情報、132:4
39. 細田育広. 森林のある山間で観測された全天日射量の簡易な評価法の検討. 水文・水資源学会研究発表会要旨集（2019）、210-211
40. 細田育広. 基盤事業：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報（令和元年版）、60:29-30
41. 細田育広. 竜ノ口山南谷 3% 面積における計画材積率 35% 間伐による水流出の短期的変化. 日本森林学会大会学術講演集、131:175 (P1-224)
42. 吉村真由美. The effect of substrate disturbance on benthic invertebrates in old-growth broad-leaved forest and planted conifer forest basin streams in Japan. (老齢天然林と針葉樹林流域に生息する底生動物への攪乱による影響). INLAND WATERS、9 (4):503-512
43. 吉村真由美. 溪流における小規模かく乱による水生昆虫等の群集変化ー森林タイプによる違いー. 日本昆虫学会大会講演要旨集、79:P58
44. 吉村真由美、赤間亮夫. 福島第一原発事故により汚染された水生生物における放射性セシウム濃度の推移. 日本陸水学会大会講演要旨集、84:P41
45. 東川航（神戸大）、吉村真由美、八木剛（兵庫県立人と自然の博物館）、前藤薫（神戸大）. 水田地帯における赤とんぼの衰退と保全に関する課題ー生息地利用の視点からー. 陸水学雑誌、80 (3):107-124

46. 吉村真由美、赤間亮夫. 福島県の溪流における水生生物の放射性セシウムによる汚染状態の推移. 日本生態学会大会講演要旨集、67:P2-PC-397
47. Thomas Lei (トーマス レイ・龍谷大学)、YAMASHITA Naoko (山下直子)、WATANABE Takuya (渡辺卓也・龍谷大学)、KAWAHARA Takayuki (河原孝行)、MIYAURA Tomiyasu (宮浦富保・龍谷大学). Why does *Daphne pseudomezereum* drop its leaves in the summer? An adaptive alternative to surviving forest shade (なぜオニシバリは夏に葉を落とすのか? 林内で生存するための適応戦略). *Physiologia Plantarum*, 168:77-87、<https://doi.org/10.1111/ppl.12972>
48. 山下直子、田中真哉、垂水亜紀、奥田史郎. 中山間地での広葉樹の循環的利用と地域再生. *山林*, 1627:18-23
49. 山下直子. 広葉樹林の循環利用と森林再生. 森林資源の利用と地域再生のためのワークショップ in 東近江 要旨集、:13
50. 山下直子. 近畿中国地域の中山間地における広葉樹資源の利用と再生に向けて. 森林総研関西支所研究情報、132:1
51. 山下直子. 広葉樹資源を循環利用するための地域力ー近畿圏中山間地での取り組みー. 地域再生シンポジウム 2019 in 岩手 持続的な広葉樹利用による地域再生ー価値を向上し資源の利用拡大を探るー、講演番号 7
52. 杉田久志 (雪森研究所)、高橋利彦 (木工舎ゆい)、酒井敦、八木橋勉、櫃間岳 (国際農研)、高橋和規、大谷達也. 岩手県のブナ択伐天然更新施業地における伐採 30 年後までの森林動態. 日本森林学会大会学術講演集、131:222 (E12)
53. HOTTA Masanobu (堀田昌伸・長野環境研)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、OZEKI Masaaki (尾関雅章・長野環境研)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HAMADA Takashi (浜田崇・長野環境研)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、YASUDA Masatsugu (安田正次・アジア航測)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東農大). Modeling future wildlife habitat suitability: serious climate change impacts on the potential distribution of the Rock Ptarmigan *Lagopus muta japonica* in Japan's northern Alps. (北アルプスにおけるニホンライチョウへの温暖化影響評価). *BMC Ecology*, 19, art. num. 23, DOI:10.1186/s12898-019-0238-8
54. 宮本和樹、荒木眞岳、山川博美、中尾勝洋、栗屋善雄 (岐阜大学)、渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)、久田善純 (岐阜県森林研究所). 高齢スギ人工林の林分特性: 岐阜県郡上市の事例. 日本森林学会大会学術講演集、131:267 (P2-147)
55. 高野 (竹中) 宏平 (長野県環境保全研究所)、中尾勝洋、尾関雅章 (長野県環境保全研究所)、堀田昌伸 (長野県環境保全研究所)、浜田崇 (長野県環境保全研究所)、須賀丈 (長野県環境保全研究所)、大橋春香 (森林総研 PD)、平田晶子 (国立環境研究所)、石郷岡康史 (農業環境変動研究セ)、松井哲哉. 自治体の地域気候変動適応に向けた Velocity of Climate Change (VoCC) の解析. *環境情報科学*, 33:49-54、https://doi.org/10.11492/ceisapers.ceis33.0_49
56. OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研 PD)、HASEGAWA Tomoko (長谷川知子・立命館大)、HIRATA Akiko (平田晶子・国環研)、FUJIMORI Shinichiro (藤森真一郎・京大)、TAKAHASHI Kiyoshi (高橋潔・国環研)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・農大)、HIJIOKA Yasuaki (舩岡靖明・国環研)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉). Biodiversity can benefit from climate stabilization despite adverse side effects of land-based mitigation. (生物多様性は土地に起因する緩和の悪影響にも関わらず気候変動安定化の恩恵を受ける). *Nature Communications*, 10:5240、<https://doi.org/10.1038/s41467-019-13241-y>

57. 大橋春香 (森林総研 PD)、長谷川知子 (立命館大)、平田晶子 (国立環境研究所)、藤森真一郎 (京都大)、高橋 潔 (国立環境研究所)、津山幾太郎、中尾勝洋、小南裕志、田中信行 (東京農大)、脇岡靖明 (国立環境研究所)、松井哲哉. 生物多様性保全と気候変動緩和をどのように両立するか: 種分布モデルを用いた全球解析. 日本生態学会大会講演要旨集、67:E02-04
58. 比嘉基紀 (高知大)、松井哲哉、中尾勝洋、田中信行 (東京農大)、Wang Zhiheng (北京大). 日本と中国に共通して分布するコナラ属樹木の分布特性. 植生学会大会講演要旨集、24:34
59. OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研 PD)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、KOIDE Dai (小出大・国環研)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・農大). Habitat of sika deer expanded by global warming. (気候温暖化で拡大するシカの生息地). Finland-Japan Joint Seminar in 2019 at Kagoshima University Abstract book、:10
60. TSUMURA Yoshihiko (津村義彦・筑波大)、KIMURA Megumi (木村恵)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、UCHIYAMA Kentaro (内山憲太郎)、UJINO-IHARA Tokuko (伊原徳子)、Yafeng Wen (中南林業科技大)、Zaikang Tong (浙江農林大)、Wenjun Han (中南林業科技大). Effects of the last glacial period on genetic diversity and genetic differentiation in *Cryptomeria japonica* in East Asia. (東アジアに分布するスギの遺伝的多様と遺伝的差異における最終氷期の影響). *Tree Genetics & Genomes*、16:19
61. 内山憲太郎、韓慶民、楠本倫久、中尾勝洋、上野真義、津村義彦 (筑波大学). スギの遺伝的系統と局所適応. 日本生態学会大会講演要旨集、67:W06-1 (自由集会)
62. 中尾勝洋. スギ天然林分布と気候要員の定量解析にもとづく温暖化影響予測. 北方林業、71 (1):17-20
63. 中尾勝洋. 地球温暖化に伴う植生帯の移動. 森林と地球環境変動 (共立出版、216 頁)、149-167
64. 中尾勝洋、山川博美、栗屋善雄 (岐阜大学流域圏科学研究センター)、渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)、宮本和樹、荒木眞岳. スギ高蓄積林分成立条件の高解像度での定量評価: 岐阜県郡上市における事例. 日本森林学会大会学術講演集、131:267 (P2-148)
65. 中尾勝洋、山川博美、栗屋善雄 (岐阜大学流域圏科学研究センター)、渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)、宮本和樹、荒木眞岳. スギ高蓄積林分の地域内における分布と成立条件の定量評価: 岐阜県郡上市における事例. 流域圏保全研究推進セミナー要旨集、4: 口頭発表 2
66. 松井哲哉、平田晶子 (国環研)、中尾勝洋、堀田昌伸 (長野県環境保全研)、津山幾太郎、松橋彩衣子 (農研機構)、高野 (竹中) 宏平 (長野県環境保全研)、尾関雅章 (長野県環境保全研). 森林生態系への影響評価. 気候変動適応技術の社会実装ガイドブック (技報堂出版)、第 16 章 :173-177
67. YAZAKI Kenichi (矢崎 健一)、OGASA Y Mayumi (小笠真由美)、KURODA Katsushi (黒田克史)、UTSUMI Yasuhiro (内海泰弘・九州大学)、KITIN Peter (University of Wisconsin)、SANO Yuzou (佐野雄三・北海道大学). Xylem Water Distribution in Woody Plants Visualized with a Cryo-Scanning Electron Microscope (低温走査型電子顕微鏡で可視化された樹木の木部内水分分布). *Journal of Visualized Experiments*、e59154、DOI:10.3791/59154
68. OGASA Mayumi Y (小笠真由美)、TANEDA Haruhiko (種子田春彦・東京大学)、OOEDA Hiroki (大條弘貴・東京大学)、OHTSUKA Akihiro (大塚晃弘・東京大学)、MARUTA Emiko (丸田恵美子・神奈川大学). Repair of severe winter xylem embolism supports summer water transport and carbon gain in flagged crowns of the subalpine conifer *Abies veitchii* (亜高山帯針葉樹シラビソの旗型樹冠における冬の木部通水阻害の回復は翌夏の水輸送と炭素獲得を支えている). *Tree Physiology*、DOI:10.1093/treephys/tpz066

69. OGASA Mayumi Y (小笠真由美)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、UTSUMI Yasuhiro (内海泰弘・九州大学)、MIKI Naoko H (三木直子・岡山大学)、FUKUDA Kenji (福田健二・東京大学). Short-time xylem tension relaxation prevents vessel refilling and alleviates cryo-fixation artifacts in diffuse-porous *Carpinus tschonoskii* and *Cercidiphyllum japonicum* (散孔材のイヌシデとカツラにおいて、短時間の木部張力の緩和は道管の再充填を抑え、凍結固定に伴うアーティファクトを軽減する). *Tree Physiology*, 39 (10):1725-1735, DOI:10.1093/treephys/tpz066
70. 齋藤隆実、小笠真由美、飛田博順、矢崎健一、壁谷大介、小黑芳生、宇都木玄. スギコンテナ苗における根鉢の物理的性質の定量的評価. *日本森林学会誌*, 101 (4):145-154
71. 平井敬三、山田毅、長倉淳子、小笠真由美、稲垣昌宏. Effect of whole-tree-harvesting on soil properties and reuse of wood ash produced from woody biomass power plant for nutrient compensation to the forest in Japan (全木集材の土壌影響及び土壌養分補填のための木質バイオマス燃焼灰の活用). *Pesquisa florestal brasileira*, 39:459
72. TANEDA Haruhiko (種子田春彦・東京大)、OOEDA Hiroki (大條弘貴・元東京大)、OHTSUKA Akihiro (大塚晃弘・元東京大)、OGASA Y Mayumi (小笠真由美)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、MARUTA Emiko (丸田恵美子・神奈川大). Aspiration of inter-tracheid pit and cavitated lumen of tracheids cause inhibition of transport induced by frost drought in young stem of *Abies veitchii*. (凍結が引き起こすオオシラビソ若枝の通水阻害の原因は仮道管間の壁孔閉鎖とキャビテーションである). *International Mountain Conference*, WS 2.2.A-332
73. 飛田博順、齋藤隆実、小笠真由美、矢崎健一、香山雅純、才木真太郎、上村章. スギコンテナ苗の育苗中の根系発達. *日本森林学会大会学術講演集*, 131:258 (P2-111)
74. KITAGAWA Ryo (北川涼)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横浜国立大学)、NISHIZAWA Keita (西澤啓太・横浜国立大学)、KANEKO Ryo (金子亮・国立極地研究所)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大学)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大学)、UCHIDA Masaki (内田雅己・国立極地研究所)、MORI S Akira (森章・横浜国立大学). Positive interaction facilitates landscape homogenization by shrub expansion in the forest-tundra ecotone. (低木種間の相互作用が森林-ツンドラ移行帯の景観の均質化を促進する). *Journal of Vegetation Science*, jvs.12818
75. 鈴木紅葉 (横浜国立大学)、北川涼、小出大 (国立環境研究所)、岡田慶一 (横浜国立大学)、森章 (横浜国立大学). 亜高山帯老齢林における樹木個体群の非平衡性: 約40年間の観測データから. *日本森林学会大会学術講演集*, 131:151 (P1-126)
76. 酒井暁子 (横浜国立大学)、北川涼、森章 (横浜国立大学)、三村真紀子 (岡山大学). 保守的/派生的な地形ニッチ-丹沢山地における樹種配列の系統シグナル分析より-. *日本生態学会大会講演要旨集*, 67:G02-6
77. 山崎海都 (東京農業大学)、笹沢優気 (東京農業大学)、北川涼、岡本淳美 (東京農業大学)、今井伸夫 (東京農業大学). 耕作履歴が半自然草地の植物の種・系統的多様性に及ぼす影響. *日本生態学会大会講演要旨集*, 67:PI-PD475#
78. KITAGAWA Ryo (北川涼)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横浜国立大学)、NISHIZAWA Keita (西澤啓太・横浜国立大学)、KANEKO Ryo (金子亮・国立極地研究所)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大学)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大学)、UCHIDA Masaki (内田雅己・国立極地研究所)、MORI S Akira (森章・横浜国立大学). Une interaction positive facilite l'homogénéisation du paysage par l'expansion des arbustes dans l'écotone forêt-toundra. (低木種間の相互作用が森林-ツンドラ移行帯の景観の均質化を促進する). *Colloque du CEN Édition 2020*, 26-27

79. NISHIZAWA Keita (西澤啓太 横浜国立大学)、DECAMPUS Lucas (ケベック大学トロワリビエ校)、MAIRE Vincent (ケベック大学トロワリビエ校)、BETY Joël (ケベック大学リモースキー校)、LEVESQUE Esther (ケベック大学トロワリビエ校)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横浜国立大学)、TANABE Yukiko (田邊優貴子・国立極地研究所)、UCHIDA Masaki (内田雅己・国立極地研究所)、MORI S Akira (森章・横浜国立大学). Les conséquences écologiques de la disparition des herbivores dans les écosystèmes arctiques, la comparaison entre l'exclusion active et passive. (北極圏の生態系における草食動物の消失の影響). Colloque du CEN Édition 2020、34-35
80. 山浦悠一、成田あゆ (道立林業試験場)、楠本良延 (西日本農業研究センター)、永野惇 (龍谷大学)、手塚あゆみ (龍谷大学)、岡本透、高原光 (京都府立大学)、中村太士 (北海道大学)、井鷲裕司 (京都大学)、David Lindenmayer (オーストラリア国立大学). Genomic reconstruction of 100, 000-year grassland history in a forested country: population dynamics of specialist forbs (森林の国における過去 10 万年の草地の歴史の遺伝的再構築: 生息地に特化した草本植物の集団動態). Biology Letters、15:20180577
81. 石塚成宏、鶴田健二 (森林総研 PD)、相澤州平、橋本昌司、篠宮佳樹、酒井寿夫、橋本徹、伊藤江利子、梅村光俊、森下智陽、小野賢二、野口享太郎、岡本透、金子真司、鳥居厚志、溝口岳男、稲垣昌宏、稲垣善之、志知幸治、鳥山淳平、酒井佳美、森大喜、白戸康人 (農環研)、片柳薫子 (農環研)、小原洋 (農環研)、神山和則 (農環研)、高田裕介 (農環研)、神田隆志 (農環研)、井上美那 (農環研)、草場敬 (九沖農研). 農地から森林への土地利用変化における土壌炭素量の変化係数について. 日本土壌肥料学会大会講演要旨集、65:154 (P8-2-14)
82. 太田陽子 (秋吉台科学博物館)、岡本透. 秋吉台地域における幕末期以降の草地分布の変遷. 秋吉台科学博物館報告、54:17-25
83. 安井瞭 (東京大)、岡本透、寺嶋芳江 (琉球大)、奈良一秀 (東京大). 国絵図と古文書史料から読み解く江戸年間の宮古群島における松樹導入の歴史. 九州森林学会大会研究発表プログラム、75:310
84. 岡本透. 秋吉台の土壌生成 (風成堆積物の影響). 日本ペドロロジー学会大会講演要旨集 (2019)、:24-27
85. 柳由貴子 (山口大)、金子悠 (山口大)、安永昂生 (山口大)、藤間充 (山口大)、太田陽子 (秋吉台科学博物館)、岡本透、平舘俊太郎 (九州大). 秋吉台半自然草原の土壌特性-剣山土壌断面における化学性の詳細変化. 日本ペドロロジー学会大会講演要旨集 (2019)、:39
86. 梅村光俊、橋本徹、伊藤江利子、相澤州平、岡本透、鳥居厚志. 北海道のササ地土壌中に含有する植物ケイ酸体の粒径分布. 日本森林学会大会学術講演集、131:293 (P2-255)
87. 志知幸治、池田重人、岡本透、菊地賢、内山憲太郎、中野陽介 (只見町). 福島県只見地域における過去 1 万年間のブナ林変遷. 日本森林学会大会学術講演集、131:295 (P2-262)
88. SHIMADA Takuya (島田卓哉)、HOSHINO Daisuke (星野大介)、OKAMOTO Tohru (岡本透)、SAITOH Tomoyuki (齋藤智之)、NOGUCHI Kazuyuki (野口和幸・愛知森林管理事務所)、SAKAI Takeshi (酒井武). Population responses of rodents to the mast seeding of dwarf bamboo *Sasamorpha borealis* over the Chubu region of Japan. (中部地方で発生したスズタケ (*Sasamorpha borealis*) 一斉結実に対する野ネズミ個体群の反応). 森林総合研究所研究報告、18 (4):381-387
89. ITOH Yuko (伊藤優子)、TAKASE Keiji (高瀬恵次・石川県立大学)、FUJIHARA Youichi (藤原洋一・石川県立大学)、OKAMOTO Toru (岡本透). Atmospheric depositions on forest ecosystems in areas along the Sea of Japan. (日本海側の森林生態系への大気降下物). Proceedings of JpGU 2019、AHW22-P19
90. 安井瞭 (東京大)、岡本透、寺嶋芳江 (静岡大学)、奈良一秀 (東京大). 琉球松林の外生菌根菌群集と森林の履歴: 江戸時代の植生情報の利用. 日本森林学会大会学術講演集、131:190 (P1-284)

91. 岡本透. 秋吉台は何でできている? 秋吉台の歴史とつちのかかわり. 山口大学アカデミックセンターシンポジウム『秋吉台の赤土のひみつ』講演要旨集、2-3
92. 谷川東子 (名古屋大)、池野英利 (兵庫県立大)、藤堂千景 (兵庫県農林水産技術総合センター)、山勢敬太郎 (兵庫県農林水産技術総合センター)、大橋瑞江 (兵庫県立大)、岡本透、溝口岳男、中尾勝洋、金子真司、鳥居厚志、稲垣善之、中西麻美 (京都大)、平野恭弘 (名古屋大). 根系が抱きかかえる土壌の量－台風が地上に残した根鉢の解析－. 日本森林学会大会学術講演集、131:109 (T4-3)
93. 岡本透. 防災意識を高めるために. 森林総合研究所関西支所研究情報、135:4
94. 谷川東子 (名古屋大学大学院)、眞家永光 (北里大学)、平野恭弘 (名古屋大学大学院)、溝口岳男、藤井佐織、松田陽介. 葉と根の分解過程における菌叢遷移－2.5年間にわたる室内培養実験－. 日本生態学会大会講演要旨集、67:P2-PA-131
95. 溝口岳男. 異なる菌根を形成する樹木実生間の競合. 森林総合研究所関西支所研究情報、135:2-3
96. 多田泰之. スミレモが語る崩壊危険度. 森林総合研究所関西支所研究情報、133:4
97. 白澤紘明、多田泰之、臼田寿生 (岐阜県)、和多田友宏 (岐阜県)、矢部浩 (鳥取県). 山地災害リスク評価を目的とした保全対象との距離の全国試算. 森林利用学会学術研究発表会講演要旨集、26:17
98. Marryanna Lion (マレーシア森林研究所)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、NIIYAMA Kaoru (新山馨)、ITO Masamichi (伊藤雅通・兵庫県立大学)、SATO Tamotsu (佐藤保)、TAKANASHI Satoshi (高梨聡)、Siti-Aisah Shamsuddin (マレーシア森林研究所)、Abd-Rahman Kassim (マレーシア森林研究所). Spatial distribution of soil moisture and its influence on stand structure in a lowland dipterocarp forest in Peninsular Malaysia (半島マレーシアにおける土壌水分の空間分布とその土壌水分が低地フタバガキ科林の林分構成に及ぼす影響). *Journal of Tropical Forest Science*, 31 (2):135-150, DOI:10.26525/jtfs2019.31.2.135150
99. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、森下智陽、野口宏典、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学)、中野隆志 (富士山科学研)、和田龍一 (帝京科学大). Seasonal variations of isoprene and monoterpenes concentrations in six forests between cool temperate and subtropical zone in Japan. (日本の冷温帯から亜熱帯までの6森林におけるイソプレンとモノテルペン濃度の季節変動). *AsiaFlux2019 -20th anniversaryworkshop- Conference Proceedings*, 20:146
100. 中野尚治 (帝京科学大学)、和田龍一 (帝京科学大学)、松見豊 (名古屋大学)、高梨聡、深山貴文、小南裕志、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、植山雅仁 (大阪府立大学)、高木健太郎 (北海道大学)、堅田元喜 (茨城大学)、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所)、反町篤行 (福島県立医科大学). 富士吉田アカマツ林におけるオゾンフラックスの季節変化. 日本農業気象学会関東甲信越支部例会 (2019)、5
101. 鈴木拓海 (信州大学)、岩田拓記 (信州大学)、高梨聡、深山貴文、溝口康子、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所). アカマツ林からの蒸発散量の十年規模変動とその物理的・生物的控制要因. 日本農業気象学会関東甲信越支部例会 (2019)、6
102. 榊原進哉 (信州大学)、岩田拓記 (信州大学)、高梨聡、深山貴文、小南裕志、吉藤奈津子、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所). アカマツ林の林床における二酸化炭素放出の日変化と季節変化. 日本農業気象学会関東甲信越支部例会 (2019)、4

103. SUZUKI Takumi (鈴木拓海・信州大学)、IWATA Hiroki (岩田拓記・信州大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、OKANO Michiaki (岡野通明)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YOSHIFUJI Natsuko (吉藤奈津子)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所). Driving factors of changes in evapotranspiration from a red pine ecosystem (アカマツ生態系からの蒸発散の変動要因). AsiaFlux2019 -20th anniversary workshop、20:P1-F6
104. WADA Ryuichi (和田龍一・帝京科学大学)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、TANI Akira (谷晃・静岡県立大学)、MOCHIZUKI Tomoki (望月智貴・静岡県立大学)、MIYAZAKI Yuzo (宮崎雄三・北海道大学)、KAWAMURA Kimitaka (河村公隆・北海道大学)、TAKAHASHI Yoshiyuki (高橋善幸・国立環境研究所)、SAIGUSA Nobuko (三枝信子・国立環境研究所)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所)、YONEMURA Seiichiro (米村正一郎・農研機構)、MATSUMI Yutaka (松見豊・名古屋大学)、KATATA Genki (堅田元喜・茨城大学). Observation of vertical profiles of NO, O₃, and VOCs to estimate their source and sink distributions by inverse modelling in a Japanese larch forest (カラマツ林における窒素酸化物、オゾン、揮発性有機化合物の観測とインバースモデルによるソースとシンク起源の推定). AsiaFlux2019 -20th anniversary workshop、20:T-4
105. 和田龍一 (帝京科学大学)、松見豊 (名古屋大学)、高梨聡、深山貴文、小南裕志、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、植山雅仁 (大阪府立大学)、高木健太郎 (北海道大学)、堅田元喜 (茨城大学)、中野隆志 (山梨環科研)、反町篤行 (福島県立医科大学). 富士山麓森林におけるオゾンフラックスの季節変化とその要因の解明. 大気環境学会、60:1H1000
106. MOCHIZUKI Tomoki (望月智貴・静岡県立大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、WADA Ryuichi (和田龍一・帝京科学大学)、MIYAZAKI Yuzo (宮崎雄三・北海道大学)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所)、TANI Akira (谷晃・静岡県立大学). Canopy fluxes of monoterpene, isoprene and isoprene oxidation products in a pine-oak forest. (マツナラ林樹冠におけるモノテルペン、イソプレンおよびイソプレン酸化物のフラックス). Journal of Agricultural Meteorology、76 (1):36-43、DOI:10.2480/agrmet.D-19-00039
107. 小林慧人 (京都大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、小南裕志、北山兼弘 (京都大学)、小野田雄介 (京都大学). 13C パルスラベリング手法を用いたモウソウチクの炭素輸送過程の追跡. 日本森林学会大会学術講演集、131:154 (P1-140)
108. 高梨聡、安宅未央子 (京都大学)、檀浦正子 (京都大学). コナラの萌芽更新時における炭素動態. 日本森林学会大会学術講演集、131:286 (P2-227)
109. WADA Ryuichi (和田龍一・帝京科学大学)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、TANI Akira (谷晃・静岡県立大学)、MOCHIZUKI Tomoki (望月智貴・静岡県立大学)、MIYAZAKI Yuzo (宮崎雄三・北海道大学)、KAWAMURA Kimitaka (河村公隆・北海道大学)、TAKAHASHI Yoshiyuki (高橋善幸・国立環境研究所)、SAIGUSA Nobuko (三枝信子・国立環境研究所)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所)、YONEMURA Seiichiro (米村正一郎・農研機構)、MATSUMI Yutaka (松見豊・名古屋大学)、KATATA Genki (堅田元喜・茨城大学). Observation of vertical profiles of NO, O₃, and VOCs to estimate their sources and sinks by inverse modeling in a Japanese larch forest (カラマツ林における窒素酸化物、オゾン、揮発性有機化合物の観測とインバースモデルによるソースとシンク起源の推定). Journal of Agricultural Meteorology、76 (1):1-10、DOI:10.2480/agrmet.D-18-00029
110. 高梨聡. 二酸化炭素炭素安定同位体比を用いた森林における炭素循環の推定. 京都大学生存圏研究所オープンセミナー、247:1

111. 高梨聡. 気候変動と森林. 森林総合研究所関西支所研究情報、134:4
112. 小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、岡野道明、溝口康子、森下智陽、高梨聡、北村兼三、中野隆志（山梨県富士山研究所）、安田泰輔（山梨県富士山研究所）、和田龍一（帝京科学大学）、岩田拓記（信州大学）、渡辺力（北海道大学）、中井裕一郎、大谷義一. Long term variation of CO₂ flux at cool temperate red pine forest in Japan (冷温帯アカマツ林における CO₂ フラックスの長期変動). Proceeding of Asia Flux meeting (2019)、P2-F19
113. 小南裕志、安田幸生、小野賢二、森下智陽、深山貴文、吉藤奈津子、岡野道明、高梨聡、北村兼三. 短スパンクロードパス法を用いた乱流変動 CO₂ フラックス測定. 日本森林学会大会学術講演集、131:179 (P1-240)
114. 岡野道明、小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、高梨聡、中井裕一郎. 富士吉田森林気象試験地および近郊における最近の気候変動トレンドについて. 富士山セミナー（山梨県富士山研究所）、21:2
115. 岡野道明、小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、高梨聡、中井裕一郎. 富士吉田森林気象試験地とその近郊において検出された最近の気候変動トレンド. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集（2020）、PB-7
116. IMAMURA Naohiro（今村直広）、MATSUURA Toshiya（松浦俊也）、AKAMA Akio（赤間亮夫）、SHINOMIYA Yoshiki（篠宮佳樹）、KOBAYASHI Masahiro（小林政広）、MIURA Satoru（三浦覚）、KANEKO Shinji（金子真司）. Temporal changes in spatial distributions of radiocesium in forest floors in Fukushima, Japan. (日本の福島における林床の放射性セシウムの空間分布の経年変動). IUFRO 2019 XXVWorldCongress、E8h
117. MANAKA Takuya（真中卓也）、IMAMURA Naohiro（今村直広）、KANEKO Shinji（金子真司）、MIURA Satoru（三浦覚）、FURUSAWA Hitomi（古澤仁美）、KANASASHI Tsutomu（金指努・森林総研 PD）. Six-year trends in exchangeable and organic matter-bound radiocesium in Fukushima forest soils. (福島県の森林土壌における交換態及び有機物に結合した放射性セシウムの6年間の変動). IUFRO 2019 XXVWorldCongress、E8h
118. SAKASHITA Wataru（坂下渉）、MIURA Satoru（三浦覚）、AKAMA Akio（赤間亮夫）、OHASHI Shinta（大橋伸太）、IKEDA Shigeto（池田重人）、SAITOH Tomoyuki（齋藤智之）、KOMATSU Masabumi（小松雅史）、SHINOMIYA Yoshiki（篠宮佳樹）、KANEKO Shinji（金子真司）. Vertical radiocesium transfer process in soil via roots. (根を介した土壌中の放射性セシウムの鉛直移動プロセス). IUFRO 2019 XXVWorldCongress、E8w
119. 坂下渉、三浦覚、赤間亮夫、大橋伸太、池田重人、齋藤智之、小松雅史、篠宮佳樹、金子真司. 根を介した土壌中の放射性セシウム移動プロセスについて. 日本森林学会大会学術講演集、131:165 (P1-183)
120. 橋本昌司、今村直広、金子真司、小松雅史、松浦俊也、仁科一哉（国立環境研究所）、大橋伸太. 森林内における ¹³⁷Cs 動態のモデル解析. 日本森林学会大会学術講演集、131:106 (T2-9)
121. HASHIMOTO Shoji（橋本昌司）、IMAMURA Naohiro（今村直広）、KANEKO Shinji（金子真司）、KOMATSU Masabumi（小松雅史）、MATSUURA Toshiya（松浦俊也）、NISHINA Kazuya（仁科一哉・国立環境研究所）、OHASHI Shinta（大橋伸太）. New predictions of deposited ¹³⁷Cs dynamics in forests after the Fukushima nuclear accident. (福島事故で森林に沈着した放射性セシウムの新しい動態予測). ScientificReports、10 (1):29
122. 鳥居厚志. 竹林の分布拡大とその防除について. 植調、619:6-11

123. 浴野泰甫 (鹿児島連大・現明治大)、吉賀豊司 (佐賀大)、竹内祐子 (京都大)、市原優、神崎菜摘. Sexual dimorphism of the cuticle and body-wall muscle in free-living mycophagous nematodes (自活性糸状菌食性線虫の筋肉と角皮における性的二形). *Canadian Journal of Zoology*, 97 (6):510-515, DOI:10.1139/cjz-2018-0178
124. 市原優、藤井栄 (徳島県立農林水産総合技術支援センター)、安藤裕萌、升屋勇人. コンテナに播種したスギ種子の発芽阻害に関与する種子腐敗. *日本森林学会誌*, 101 (3):134-137
125. 村田仁、市原優. マツタケ有望菌株の選抜. 第4期中長期計画成果 (育種・生物機能-4) 高級菌根性きのこ栽培技術の開発-マツタケ・トリュフの栽培化に向けて、:8
126. SUGITA Hisashi (杉田久志・雪森研究所)、NISHIO Yusuke (西尾悠佑・林野庁)、TAKAHASHI Toshihiko (高橋利彦・木工舎「ゆい」)、KAJIMOTO Takuya (梶本卓也)、ICHIHARA Yu (市原優)、KUNISAKI Takashi (國崎貴嗣・岩手大学). Regeneration process biased toward under-crown Sasa-lacking habitat of sparse *Abies mariesii* forest with dense undergrowth of dwarf bamboo on a snowy mountain, northern Japan. (北日本・多雪山地のササが密生するアオモリトドマツ疎林で見られるササを欠く樹冠下に依存した更新過程). *Journal of Forest Research*, 24 (3):178-186
127. 市原優. コンテナ苗生産における病原菌による種子腐敗. *森林総合研究所関西支所研究情報*, 134:1-2
128. 升屋勇人、市原優、景山幸二 (岐阜大). 日本の森林における *Phytophthora* × *cambivora* の分布と被害実態. *日本菌学会大会講演要旨集*, 63:P-21
129. 升屋勇人、田端雅進、市原優、景山幸二 (岐阜大). *Phytophthora cinnamomi* によるウルシ林の衰退-国産漆の新たな脅威-. *日本森林学会誌*, 101 (6):318-321
130. 佐々木みゆき (京都府大生環)、中村友美 (京都府大生環)、石原誠、池田武文 (京都府大院生環)、市原優. サクラ類細菌性こぶ病菌による枝のこぶの解剖学的所見-ソメイヨシノとエドヒガンの場合-. *樹木医学会大会講演要旨*, 24:P-17
131. 市原優、升屋勇人. 日本産 *Phytophthora* 属菌 3 種の樹木 23 種の苗に対する接種試験. *日本森林学会大会学術講演集*, 131:247 (M9)
132. 市原優、太田明 (森林総研非常勤職員)、藤田徹 (京都府森林セ)、山中高史. マツタケのシロから採取した子実体原基の組織解剖観察. 農林水産技術会議事務局委託プロジェクト高級菌根性きのこ栽培技術の開発成果発表会「マツタケ・トリュフ人工栽培技術の開発」講演要旨集 (令和元年度)、:5
133. 関伸一. 分子系統樹から解き明かす琉球列島に固有な鳥たちの起源. 遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界、115-149
134. 八木橋勉、小高信彦、久高将洋 (Yambaru Green)、久高奈津子 (Yambaru Green)、大城勝吉 (Yambaru Green)、中田勝士 (環境省やんばる野生生物保護センター)、高嶋敦史 (琉球大学)、東竜一郎 (沖縄県立辺土名高等学校)、城間篤 (沖縄県立向陽高等学校)、渡久山尚子 (東村立山と水の生活博物館)、石原鈴也 (東村立山と水の生活博物館)、宮本麻子、関伸一、齋藤和彦、中谷友樹 (東北大学). 沖縄島北部におけるヤンバルクイナの繁殖分布に影響する要因. *日本森林学会大会学術講演集*, 131:297 (P2-270)
135. 神崎菜摘、升屋勇人、市原優、前原紀敏、相川拓也、浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、井手竜也 (科博). *Bursaphelenchus carpini* n. sp., *B. laciniatae* n. sp. and *B. cryphali okhotskensis* n. subsp. (Nematoda: Aphelenchoididae) isolated from Japan (日本国内から分離された、*Bursaphelenchus carpini*, *B. laciniatae*, *B. cryphali okhotskensis* の新種、新亜種記載). *Nematology*, 21 (4):536-549, DOI:10.1163/15685411-00003220

136. 田中克 (東大)、Dayi M. (宮崎大)、前田安信 (宮崎大)、Tsai I. (台湾・Academia Sinica)、田中龍聖 (宮崎大)、Bligh M. (宮崎大)、竹内祐子 (京大)、福田健二 (東大)、神崎菜摘、菊地泰生 (宮崎大). Stage-specific transcriptome of *Bursaphelenchus xylophilus* reveals temporal regulation of effector genes and roles of the dauer-like stages in the lifecycle (マツノザイセンチュウ耐久型化制御要因解析のためのステージ別発現遺伝子解析). *Scientific Reports*, 9:6080, DOI:10.1038/s41598-019-42570-7
137. Herrmann, M. (Max Planck Institute for Developmental Biology)、神崎菜摘、Weiler, C. (Max Planck Institute for Developmental Biology)、Yoshida, K. (Max Planck Institute for Developmental Biology)、Rodelsperger, C. (Max Planck Institute for Developmental Biology)、Sommer, R.J. (Max Planck Institute for Developmental Biology). Two new species of *Pristionchus* (Nematoda: Diplogastridae) include the gonochoristic sister species of *P. fissidentatus* (*Pristionchus fissidentatus* の雌雄異体姉妹種を含む *Pristionchus* 属 2 新種). *Journal of Nematology*, 51:e2019-24, DOI:10.21307/jofnem-2019-024
138. 北上雄大 (三重大)、神崎菜摘、谷川東子 (名古屋大)、松田陽介 (三重大). Free-living nematodes associated with pine cones of *Pinus thunbergii* and *P. taeda* at Japanese coastal and inland forest sites. (海岸、および内陸のクロマツ、およびテーダマツ球果に生息する線虫). *Nematology*, 21:389-400, DOI:10.1163/15685411-00003221
139. 神崎菜摘、Liang W.-R. (台湾・国立中興大学)、Chiu C.-I. (台湾・国立中興大学)、Yang C.-T. (台湾・国立中興大学)、Hsueh Y.-P. (台湾・中央研究院)、Li H.-F. (台湾・国立中興大学). Nematode-free agricultural system of a fungus-growing termite. (線虫の侵入を排除する、キノコ栽培シロアリの農業システム). *Scientific Reports*, 9:8917, DOI:10.1038/s41598-019-44993-8
140. 北上雄大 (三重大)、神崎菜摘、松田陽介 (三重大). First report of segmented filamentous bacteria associated with *Rhigonema* sp. (Nematoda: Rhigonematidae) dwelling in hindgut of *Riukiaria* sp. (アマビコヤスデの後腸内に生息する寄生虫、*Rhigonema* sp. 体表面からのセグメント細菌の初報告). *Helminthologia*, 56:219-228, DOI:10.2478/helm-2019-0018
141. 神崎菜摘、浴野泰甫 (明治大)、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大). Feeding dimorphism in a mycophagous nematode, *Bursaphelenchus sinensis*. (糸状菌食線虫、*Bursaphelenchus sinensis* の摂食二型). *Scientific Reports*, 9:13956, DOI:10.1038/s41598-019-50462-z
142. Pei-Yin Shih (カリフォルニア工科大)、James Siho Lee (カリフォルニア工科大)、新屋良治 (カリフォルニア工科大・明治大)、神崎菜摘、Andre Pires-daSilva (ワーウィック大)、Jean Marie Badroos (カリフォルニア大)、Elizabeth Goetz (ハリファ大)、Amir Sapir (ハリファ大)、Paul W. Sternberg (カリフォルニア工科大). Newly identified nematodes from Mono Lake exhibit extreme arsenic resistance. (モノ湖から新規に分離された線虫は、並外れたヒ素耐性を示す). *Current Biology*, 29:3339-3344, DOI:10.1016/j.cub.2019.08.024
143. Giulia Torrin (イタリア植物防疫研究所)、Agostino Strang (イタリア植物防疫研究所)、Giuseppe Mazza (イタリア植物防疫研究所)、Leonardo Marianelli (イタリア植物防疫研究所)、Pio O. Rovers (イタリア植物防疫研究所)、神崎菜摘. Description of *Bursaphelenchus irokophilus* n. sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) isolated from *Milicia excelsa* (Welw.) C.C. Berg wood imported into Italy from Cameroon. (カメルーンからの輸入イロコ材から検出された *Bursaphelenchus irokophilus* の記載). *Nematology*, 21:957-969, DOI:10.1163/15685411-00003268
144. 富田陸 (明治大)、浴野泰甫 (明治大)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大). Aphelenchoididae 科線虫における乾燥耐性メカニズム. 日本線虫学会大会講演要旨集、27:O-01
145. 堀江洋成 (明治大)、浴野泰甫 (明治大)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大). 捕食性線虫 *Seinura caverna* における孵化幼虫の飢餓に対する適応戦略. 日本線虫学会大会講演要旨集、27:O-02

146. 浴野泰甫 (明治大)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大). 捕食性線虫 *Seinura caverna* の共食い回避機構. 日本線虫学会大会講演要旨集、27:O-03
147. 新屋良治 (明治大)、Pei-Yin Shih (カリフォルニア工科大)、James Shiho Lee (カリフォルニア工科大)、神崎菜摘、Amir Sapir (ハリファ大)、Paul W Sternberg (カリフォルニア工科大). 極限環境の湖に生息する線虫は高度ヒ素耐性を示す. 日本線虫学会大会講演要旨集、27:O-04
148. 神崎菜摘、浴野泰甫 (明治大)、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大). Feeding dimorphism in *Bursaphelenchus sinensis*. (*Bursaphelenchus sinensis* の摂食二型). 日本線虫学会大会講演要旨集、27:O-16
149. KOSAKA Hajime (小坂肇)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). The insect parasitic nematode, *Contortylenchus* sp. (Tylenchida: Allantonematidae) from the spruce bark beetle, *Ips typographus*, and the large larch bark beetle, *I. cembrae* (Coleoptera: Scolytidae) in Japan. (日本産ヤツバキクイムシおよびカラマツヤツバキクイムシから検出された *Contortylenchus* 属線虫). Nematological Research、49 (2):45-47
150. KOYAMA Asuka (小山明日香)、EGAWA Chika (江川知花・農研機構)、TAKI Hisatomo (滝久智)、YASUDA Mika (安田美香・バードライフ・東京)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、IDE Tatsuya (井手竜也・国立科学博物館)、OKABE Kimiko (岡部貴美子). Contribution of non-native plants as a seasonal pollen source to native honeybees in a suburban landscape of Japan. (半都市域における在来ミツバチの季節的花粉資源としての外来植物の寄与). IAVS ANNUAL SYMPOSIUM (2019)、62:123
151. AIKAWA Takuya (相川拓也)、OZAWA Sota (小澤壮太)、MAEHARA Noritoshi (前原紀敏)、MASUYA Hayato (升屋勇人)、NAKAMURA Katsunori (中村克典)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Discovery of a phoretic association between *Bursaphelenchus doui* (Nematoda: Aphelenchoididae) and *Monochamus saltuarius* and *Acalolepta sejuncta* (Coleoptera: Cerambycidae). (*Bursaphelenchus doui* とカラフトヒゲナガカミキリおよびニセビロウドカミキリとの間の便乗関係の発見). Nematology、22 (6):713-722
152. 小坂肇、佐山勝彦、神崎菜摘、高畑義啓、牧野俊一. スズメバチ女王を不妊化するスズメバチタマセンチュウの宿主範囲と地理的分布. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、64:PG217
153. 前原紀敏、小澤壮太、神崎菜摘、升屋勇人. マツノザイセンチュウのクロコブゾウムシへの乗り移り. 日本森林学会大会学術講演集、131:242 (L8)
154. 小澤壮太、前原紀敏、神崎菜摘、相川拓也、中村克典. マツノザイセンチュウ近縁2種の便乗型成虫のカミキリムシへの乗り移り. 日本森林学会大会学術講演集、131:241 (L7)
155. 神崎菜摘. いかにして生きた材料で分類学を行うか. 日本分類学会連合公開シンポジウム「分類学者の研究フィールド最前線」講演要旨、19:6-7
156. 神崎菜摘、濱口京子. 滋賀県、マキノ高原のエグリゴミムシダマシより分離された昆虫寄生性線虫. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、64:PG252
157. 市石宙 (明治大)、浴野泰甫 (明治大)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大). シロアリ嗜好性線虫はなぜクチクラを肥厚化させるのか?. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、64:PS078
158. Farzad Aliramaji (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Zeinab Mirzaie Fouladvand (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Ebrahim Pourjam (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Parnaz Mortazavi (Tarbiat Modares 大学)、Farahnaz Jahanshahi Afshar (イラン植物防疫研究所)、神崎菜摘、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学)、Majid Pedram (イラン・Tarbiat Modares 大学). A new species of *Basilaphelenchus* Pedram, Kanzaki, Giblin-Davis & Pourjam, 2018 (Aphelenchoidea: Tylenchidae), from natural forests of Golestan province, northern Iran. (イラン、ゴレスタン州の天然林より分離された *Basilaphelenchus* 属の一新種). Nematology、22 (4):361-371

159. 神崎菜摘、浴野泰甫（明治大）、前原紀敏、相川拓也、Robin M. Giblin-Davis（フロリダ大学）. *Bursaphelenchus acaloleptae* n. sp. sharing tree and beetle carrier hosts with *B. luxuriosae* Kanzaki & Futai, 2003 in Japan. (タラノザイセンチュウと、寄主樹木、媒介昆虫を共有する新種、*Bursaphelenchus acaloleptae*). *Nematology*, 22 (5):515-527
160. 神崎菜摘、Robin M. Giblin-Davis（フロリダ大学）. The genus *Berntsenus* Massey, 1974 is a junior synonym of *Bursaphelenchus* Fuchs, 1937 (*Berntsenus* は、*Bursaphelenchus* 属の一形態だった). *Nematology*, 22 (6):677-695
161. 古澤仁美、八代田千鶴. 捕獲個体（ニホンジカ）の放置・埋設が土壤水に及ぼす影響のモニタリング. *JATAFF* ジャーナル、7 (10):21-25
162. 古澤仁美、八代田千鶴. 捕獲個体埋設による周辺環境への影響. 「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、25:50
163. 酒井敦、大谷達也、宮本和樹、八代田千鶴、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）. ニホンジカの被害対策に伴う人工林皆伐跡地の植生変化. 森林総合研究所研究報告、18 (3):311-317
164. 八代田千鶴、岡輝樹. 中国地方におけるニホンジカ分布拡大に影響する要因. 日本哺乳類学会大会講演要旨集 (2019)、:196 (P-129)
165. 竹下毅（長野県小諸市）、八代田千鶴. クマ類の錯誤捕獲問題を、種の垣根を越えて議論する. 日本哺乳類学会大会講演要旨集 (2019)、:52 (F-10 自由集会)
166. 八代田千鶴. 鳥獣で喰う2 - 研究を職業とするためのわらしべ交換 -. 「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、25:59
167. 八代田千鶴、中村充博、岡輝樹. ニホンジカ生息密度が哺乳動物種の生息状況に及ぼす影響. 日本森林学会大会学術講演集、131:296 (P2-264)
168. 安田雅俊、八代田千鶴. 森林内に人工的に塩場を創出する試み. 九州森林研究、73:121-122
169. 近藤洋史、八代田千鶴. ニホンジカ分布拡大要因の解析. 日本森林学会大会学術講演集、131:296 (P2-265)
170. 衣浦晴生、法眼利幸（和歌山県林試）、小南全良（和歌山県伊都振興局）. 和歌山県紀北地域における樹幹注入剤によるナラ枯れ枯死予防効果. 日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集、31:16
171. 伊東宏樹、衣浦晴生. ナラ枯れ跡地の更新の類型について. 日本生態学会大会講演要旨集、67:P2-PC-233
172. 小南裕志、深澤遊（東北大学）、高木正博（宮崎大学）、松倉君子（新潟大学）、田中延亮（東京大学）、鈴木智之（東京大学）、竹本周平（東京大学）、小林真（北海道大学）、衣浦晴生、上村真由子（日本大学）、門脇浩明（京都大学）、宮崎怜（横浜国立大学）、山下聡（徳島大学）、潮雅之（京都大学）、平田晶子（国立環境研究所）、安宅未央子（京都大学）. ナラ枯れが森林の炭素収支に与える影響の広域評価. 日本生態学会大会講演要旨集、67:P2-PA-128
173. 深澤遊（東北大学）、高木正博（宮崎大学）、小南裕志、松倉君子（新潟大学）、田中延亮（東京大学）、鈴木智之（東京大学）、竹本周平（東京大学）、小林真（北海道大学）、衣浦晴生、上村真由子（日本大学）、門脇浩明（京都大学）、宮崎怜（横浜国立大学）、山下聡（徳島大学）、潮雅之（京都大学）、平田晶子（国立環境研究所）、安宅未央子（京都大学）. コナラ枯死木の分解初期に関わる菌類群集の地理分布. 日本森林学会大会学術講演集、131:246 (M5)

174. 衣浦晴生、高梨琢磨、金子修治（大阪府立環境農林水産総合研究所）、山本優一（大阪府立環境農林水産総合研究所）、田山巖（東北特殊鋼（株））。振動を用いたクビアカツヤカミキリの行動制御とそれによる防除の可能性。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、64:G202
175. 衣浦晴生。クビアカツヤカミキリによるバラ科樹木の被害。森林・林業交流研究発表集録（令和元年度）、179-183
176. 濱口京子、宮下俊一郎、北條賢（関西学院大）、秋野順治（京都工繊大）。アリの巣に向かって生えるミヤコアオイーひとつの観察例として。日本蟻類研究会大会講演要旨集、62:9
177. 濱口京子、後藤秀章、升屋勇人、鎌田直人（東大演習林）。カシノナガキクイムシの mtDNA 配列に見られたダブルピークについて。日本森林学会大会学術講演集、131:299（P2-278）
178. 齋藤和彦。明治 39 年勅令 191 号の造林保護に関わる旧杉山の払下げ先。沖縄文化協会東京公開研究発表会要旨集（2019）、4:9
179. 安部哲人、工藤孝美（沖縄県在住）、齋藤和彦。樹木の萌芽能力はやんばるの森の種組成に影響するか？。亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集（令和元年度）、:12
180. 齋藤和彦。復帰前後までに設置された国頭村域の造林保護の残存箇所。亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集（令和元年度）、:9
181. 齋藤和彦。沖縄やんばるで山の歴史を探索する意義。林業経済学会秋季大会テーマ別セッション④林業史と森林史要旨集（2019）、:7
182. 齋藤和彦。国頭村の古道と開墾。やんばる学シンポジウム講演集、37-44
183. 西園朋広、北原文章、田中邦宏、小谷英司、近藤洋史、福本桂子、山田祐亮、鹿又秀聡、志水克人、高橋正義、齋藤英樹、田中真哉、齋藤和彦、高橋與明、鷹尾元、細田和男。わが国のスギ人工林の経営的評価－長期継続調査データの分析－。日本森林学会大会学術講演集、131:249（P2-075）
184. 小高信彦、阿部真、齋藤和彦、宮本麻子、八木橋勉、高嶋敦史（琉球大学農学部）、谷口真吾（琉球大学農学部）、東江賢次（沖縄県森林資源研究センター）、寺園隆一（沖縄県森林資源研究センター）。世界自然遺産推薦地「沖縄島北部」におけるゾーニングの変遷と固有種の保全に配慮した森林管理について。亜熱帯森林・林業研究会講演要旨集（令和元年度）、:10
185. 安部哲人、工藤孝美（沖縄県在住）、齋藤和彦。やんばるの森の生物多様性を指標するイスノキの優占度。日本植物学会大会講演要旨集、83:189
186. 阿部真、阿部篤志（沖縄美ら島財団総合研究センター）、齋藤和彦、高嶋敦史（琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育センター）、高橋與明、宮本麻子、小高信彦。絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林管理(2)。日本森林学会大会学術講演集、131:288（P2-232）
187. 阿部真、正木隆、齋藤和彦、小高信彦、安田雅俊、安部哲人、高嶋敦史（琉球大学）、岩井紀子（東京農工大学）、杉村乾（長崎大学）。世界自然遺産候補の奄美とやんばるの森で、生物多様性の保全と森林利用の調和をはかる。森林総合研究所研究成果選集 2019（令和元年版）、16-17
188. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、檜山真司。スギ・ヒノキ一斉林の直径分布の遷移について。応用森林学会大会研究発表要旨集、70:16
189. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、鳥居厚志、金子真司、近口貞介、檜山真司。地獄谷収獲試験地（奈良県奈良市）第 14 回定期調査報告－アカマツ・ヒノキ・スギ複層林から誘導された林分について－。森林総合研究所関西支所年報（令和元年版）、60:32-34

190. 田中邦宏、齋藤和彦、近口貞介、桒山真司. 針葉樹人工林における直径分布のばらつきの推移について. 日本森林学会大会学術講演集、131:249 (P2-076)
191. 田中真哉. 広葉樹の利用と森林再生についてのワークショップ」実施報告 (1): 森林づくり分科会. 森林総合研究所関西支所研究情報、132:2
192. 田中真哉. 航空機 LiDAR を用いた森林資源評価. システム農学会春季大会 in つくば シンポジウム・一般研究発表会講演要旨集 (2019)、11-12
193. 田中真哉、古家直行. 北海道におけるグローバル森林変化マップを用いたトドマツ・カラマツ林の伐採動向. 北方森林学会大会プログラム、68:5 (P-5)
194. FURUYA Naoyuki (古家直行)、TANAKA Shinya (田中真哉)、AMANO Tomomasa (天野智将). Current Situations of Wood Transportation in Hokkaido, Japan-Based on Analysis of Sales Information of Log Auction at the National Forests. (北海道における木材輸送の現況 - 国有林公売データ解析に基づく). Proceedings of SFEM2019:The International Symposium of Sustainable Forest Ecosystem Management, August 27-29, 2019, Hokkaido, Japan、11
195. 古家直行、山田健、宗岡寛子、猪俣雄太、佐々木尚三、津山幾太郎、田中真哉、天野智将、石橋聡. 資源と需要のマッチングによる北海道人工林資源の保続・有効利用に向けて. 北の森だより、23:8-9
196. 田中真哉、古家直行. グローバル森林変化マップに基づく森林変化面積の北海道における精度分析. 北方森林研究、68:27-30
197. 高橋與明、田中真哉. ドローン空撮画像の SfM/MVS 処理について - 樹高推定の観点から -. 森林総合研究所九州支所年報 (令和元年版)、31:20